

「里山の維持再生ゾーン」の実現に向けて ～市民協働による持続可能なまちづくりのモデルケースとして～

冬の里山で生き物探し

12月15日、やましろサイエンスクラブが自然観察会

学研木津北地区には、豊かな自然が残されています。

やましろサイエンスクラブの子どもたちが、里地里山活動をする「鹿背山俱楽部」の協力を得て、自然観察会をおこないました。



■生き物の冬の過ごし方は？



冬の虫たちは、どのようにして寒さをしのいでいるのでしょうか。

このような素朴な疑問を解決するため、講師に京都府立園部高等学校の田中先生、NPO法人やましろきっづサイエンスの佐々木先生、鹿背山俱楽部の長尾会長を迎えて、調査をおこないました。

土の中にいる生き物を探す子どもたちは、まるで宝探しのように楽しんでいました。

■自然の恵みを満喫

冬の里山には、野イチゴがたくさんあります。ふだん口にするイチゴとは形が違いますが、講師から食べられると聞いた子どもたちは、不思議そうに口の中に入れ、甘いと思っていた子どもたちは、その独特の酸っぱさに驚いていました。

参加した子どもたちは「大自然での調査は楽しかった。また、春に調査をしたい。」と言っていました。また、保護者からは「長尾会長から、この豊かな自然を守るために、保全活動が必要であることを知り、改めて団体のご労苦を認識できた。我々もできる活動から実践してみたい。」との話がありました。



■里山での活動は知識次第！！



このような自然観察会や里山での活動は、里山を知る知識人の情報等の話を聞くことで、参加者の理解が深まります。

当地区には里地里山活動を実践する団体が、7団体あります。皆さんも、団体の皆さんと一緒に活動してみませんか。

活動に興味がある方は、学研企画課へご連絡ください。